

おふく

きせるおふくをいじります

ふく入りのこぼれ 印傳の紙もの

から啓えきせるまがふ添へ給は

まうんとおぼれはうらとむい

すい

おふくさん父子 遠路げんとこ

の音思かでないが然しおふくの

好晴こたぐちかて二日の清

遊ぶい父子ぶり おふくに

もふんせしたわつた

ひどいでせうことりのあつた

ごうらおふくり大切こりてく

ださいい お世 おでこ

ハ日名 ちやうし

英次

し條る小 治子 珍

ハ日名 長の飯田松井沢町

孝川英次

おわがさね 申敷贈 ありがたう よく
あ来て おわつたなあ 花崎さんの序
文 あれだけで 長生き(真加) 女一代
以て 願すべしです

馬けおと どうやら消えて 菊根分け
めでたしめでたし
ついでに 養生も 病後旅行を 壺山の奥
まで 踏み分けて 量り帰京 こんと
めでたし 申休心と